

季刊「ふくおかアジア」の創刊および原稿募集について

ふくおかアジア文化塾

代表 河村哲夫

令和2年10月1日に日本古代史ネットワーク(会長鷺崎弘朋)が設立されたことに伴い、筆者が責任編集者となり、令和2年12月から令和6年6月まで、3か月ごとに季刊「古代史ネット」をホームページ上で刊行してきたところです。

季刊「古代史ネット」の刊行状況

| 号 | 発刊時期 | 内 容 |
|-----|---------|--|
| 創刊号 | 令和2年12月 | 巻頭言 河村哲夫 日本古代史ネットワークの設立総会について 丸地三郎 木材の年輪年代法の問題点 鷺崎弘朋 日本古代通史・プロローグ 河村哲夫 【Ⅰ】卑弥呼の鏡—金銀錯嵌珠龍紋鉄鏡を中心として 【Ⅱ】天照大神の鏡—八咫鏡を中心として |
| 2号 | 令和3年3月 | 巻頭言 河村哲夫 年輪年代法の問題点 鷺崎弘朋 「水行十日陸行一月」をめぐる 愛川順一 魏志倭人伝からみえる私の邪馬台国所在地考 矢野勝英 「魏志倭人伝」の行程と「水行十日陸行一月」について 塩田泰弘 弥生時代の開始時期 丸地三郎 奴国の時代① 河村哲夫 |
| 3号 | 令和3年6月 | 巻頭言～日本書紀ルネッサンスを願う～ 河村哲夫 吉備の古代史①ふたりの天皇が行幸された谷 石合六郎 記紀に隠された史実を探る＝聖徳太子時代編 飯田真理 現実的視点からの「邪馬台国」論 秋山 耀 奴国の時代② 朝鮮半島南部の倭人の痕跡 河村哲夫 奴国の時代③ 北部九州のクニグニ 河村哲夫 |
| 4号 | 令和3年9月 | 巻頭言～年輪年代法に関する情報公開について～ 鷺崎弘朋 吉備の巨大墳を考える(上)吉備津彦の時代(4世紀) 石合六郎 中臣鎌足の虚像と皇極・孝徳時代の政変 飯田真理 奴国の時代④～奴国の神々～ 河村哲夫 |
| 5号 | 令和3年12月 | 巻頭言～ゴッドハンドの余波はつづく～ 河村哲夫 記紀に隠された史実を探る③ |

| | | | |
|----|---------|--|---|
| | | 白村江の敗戦と唐による倭国の羈縻(キビ)支配 吉備の古代史シリーズ第3回吉備の巨大古墳を考える(下) —御友別の時代(5世紀) 邪馬台国の時代①～卑弥呼の登場～ | 飯田眞理 石合六郎 河村哲夫 |
| 6号 | 令和4年3月 | 巻頭言～古代からのメッセージ～ 邪馬台国の時代②～卑弥呼の外交～ 魏志倭人伝を考える～鉄について～ 吉備の古代史シリーズ第4回 ～温羅伝説を考える(上)—こんな物語だった～ 記紀に隠された史実を探る④ ～隠された天智大王暗殺と天武天皇の真実～ | 河村哲夫 河村哲夫 塩田泰弘 石合六郎 飯田眞理 |
| 7号 | 令和4年6月 | 巻頭言～古代からのメッセージ～② 邪馬台国の時代③～卑弥呼の外交②～ 魏志倭人伝を考える～斯馬国について～ 吉備の古代史シリーズ第5回温羅伝説を考える(中) ～成立過程とその起源「神仏習合の中から誕生」 記紀に隠された史実を探る⑤ ～蘇我氏の祖は百濟人～ | 河村哲夫 河村哲夫 塩田泰弘 石合六郎 飯田眞理 |
| 8号 | 令和4年9月 | 巻頭言～今後の取り組みについて 丸地三郎・河村哲夫・山内千里 邪馬台国の時代④三韓諸国 邪馬台国の時代⑤対馬と壱岐 魏志倭人伝を考える～絹・絹織物について～ 吉備の古代史シリーズ第6回温羅伝説を考える(下) ～桃太郎の誕生「日本人の心映す鏡」 ちよいワルオヤジの古代史エッセー(新連載)第1回 「古代史を楽しんで」——あつ、そうだったのか！ 記紀に隠された史実を探る⑥「任那日本府」とは何か ～朝鮮半島における倭人の勢力～ | 河村哲夫 河村哲夫 塩田泰弘 石合六郎 大和川一路 飯田眞理 |
| 9号 | 令和4年12月 | 巻頭言 邪馬台国の時代⑥～末盧国と西海の島々～ 邪馬台国の時代⑦～末盧国から伊都国へ～ 魏志倭人伝を考える～魏使はなぜ末盧国と不弥国に行ったか 吉備の古代史シリーズ 第7回素戔鳴尊の剣(上) ——吉備のどこにあった？「十握(とつか)の剣(つるぎ)流転の真実」 | 石合六郎 河村哲夫 河村哲夫 塩田泰弘 石合六郎 |

| | | |
|-----|--------|---|
| | | <p>ちよいワルオヤジの古代史エッセー第2回 「古代史を楽しんで」一訳の解からぬことばかり 大和川一路 記紀に隠された史実を探る⑦欽明即位の謎と埼玉稻荷山鉄剣 飯田眞理</p> |
| 10号 | 令和5年3月 | <p>巻頭言 大和川一路 邪馬台国の時代⑧～伊都国から奴国へ～ 河村哲夫 魏志倭人伝を考える～髪型と衣服形態について 塩田泰弘 吉備の古代史シリーズ 第7回素戔鳴尊の剣(下) ——どんな形だったか?「邪馬台国時代の北部九州と類似」 石合六郎</p> <p>ちよいワルオヤジの古代史エッセー第3回 「古代史を楽しんで」一まるで目くらまし— 大和川一路 記紀に隠された史実を探る⑧ 欠史八代大王非存在と神武＝崇神説の検証 飯田眞理</p> |
| 11号 | 令和5年6月 | <p>巻頭言～古代史で広域連携 石合六郎 邪馬台国の時代⑨奴国から不弥国へ 河村哲夫 邪馬台国の時代⑩夜須をゆく 河村哲夫 邪馬台国の時代⑪朝倉をゆく 河村哲夫 邪馬台国の時代⑫日田をゆく 河村哲夫 魏志倭人伝を考える～鯨面文身について 塩田泰弘 吉備の古代史シリーズ 第8回造山古墳の被葬者を探る(上) 「吉備海部の娘・黒日売命か」 石合六郎</p> <p>ちよいワルオヤジの古代史エッセー第4回 「古代史を楽しんで」一違う景色— 大和川一路 記紀に隠された史実を探る⑨ヤマト王権の推移・その2 イリ系大王からワケ系大王へ～仁徳大王らによる河内王権の成立～ 飯田眞理</p> |
| 12号 | 令和5年9月 | <p>巻頭言～銅鐸について 河村哲夫 邪馬台国の時代⑬投馬国は豊の国 河村哲夫 邪馬台国の時代⑭狗奴国は肥の国 河村哲夫 邪馬台国の時代⑮狗奴国と卑弥呼の死 河村哲夫 邪馬台国の時代⑯卑弥呼と台与 河村哲夫 魏志倭人伝を考える～数値について 塩田泰弘 吉備の古代史シリーズ 第9回造山古墳の被葬者を探る(中) 「吉備海部は備中にいた」 石合六郎</p> <p>ちよいワルオヤジの古代史エッセー第5回</p> |

| | | | |
|-----|---------|---|--|
| | | 「古代史を楽しんで」—ミステリー?— 記紀に隠された史実を探る⑩ヤマト王権の推移・その3 河内王権と倭の五王の真実～二王統による大王位争奪戦とその終焉～ | 大和川一路 飯田眞理 |
| 13号 | 令和5年12月 | 巻頭言～それぞれの尾張と伊勢 後期・邪馬台国の時代①英彦山と京都平野 後期・邪馬台国の時代②神夏磯媛と豊比売命 後期・邪馬台国の時代③英彦山と宗像 後期・邪馬台国の時代④ニギハヤヒ 魏志倭人伝を考える～投馬国について 吉備の古代史シリーズ 第10回 造山古墳の被葬者を探る(下) 「謎を解く肥後系古墳と血脈」 ちよいワルオヤジの古代史エッセー第6回 「古代史を楽しんで」——誰の上にも雨は降る 記紀に隠された史実を探る⑪ 天孫降臨と神武東征の検証 | 大和川一路 河村哲夫 河村哲夫 河村哲夫 河村哲夫 塩田泰弘 石合六郎 大和川一路 飯田眞理 |
| 14号 | 令和6年3月 | 巻頭言～不適切にもほどがある! 後期・邪馬台国の時代⑤スサノオと五十猛命 後期・邪馬台国の時代⑥出雲の神々 後期・邪馬台国の時代⑦スサノオとクシナダヒメ 魏志倭人伝を考える～狗奴国について 吉備の古代史シリーズ 第11回 播磨の戦はあった!! 一片山神社伝承が証明「稚武彦は再度播磨へ」 ちよいワルオヤジの古代史エッセー第7回 「古代史を楽しんで」—縁は異なるもの 記紀に隠された史実を探る⑫最終回 天照大神の後継者・饒速日命は奈良盆地をヤマト(邪馬台)と名づけた! | 大和川一路 河村哲夫 河村哲夫 河村哲夫 塩田泰弘 石合六郎 大和川一路 飯田眞理 |
| 15号 | 令和6年6月 | ちよいワルオヤジの古代史エッセー第8回 「古代史を楽しんで」—団塊の世代とともに 後期・邪馬台国の時代⑥隠岐の島 後期・邪馬台国の時代⑦大国主命 後期・邪馬台国の時代⑧大国主命の国づくり 魏志倭人伝を考える～狗奴国について 吉備の古代史シリーズ 第12回 播磨の戦はあった!! 一片山神社伝承が証明「稚武彦は再度播磨へ」 | 大和川一路 河村哲夫 河村哲夫 河村哲夫 塩田泰弘 石合六郎 |

筆者としては、この季刊「古代史ネット」の編纂に全力を傾注し、また筆者の目標である『日本古代通史』の完成に向けて一步一步歩きつづけていたところでした。また、石合六郎氏、塩田泰弘氏、飯田眞理氏などの執筆陣による力作連載はもとより、新たに加わった内藤一郎氏という軽妙洒脱な異色の執筆者によって、古代史雑誌としての存在感が大いに高まり、インターネットによる日々のアクセスも大きく増加していたところです。

しかしながら、やむを得ない理由により、本年7月2日をもって、筆者は日本古代史ネットワークを退会し、それに伴い、季刊「古代史ネット」の編纂についても辞することとなりました。

このため、これまで季刊「古代史ネット」に提供した私の著作について、日本古代史ネットワーク会長の丸地三郎氏に対し、引き揚げさせていただく旨の申し入れを行い、また他の著作についてもそれぞれの著作者の意向を十分に確認のうえ対処されるよう申し入れを行い、了解を得たところがあります。

これまでどおりの季刊「古代史ネット」の編纂はきわめて困難となる———というか、おそらく廃刊となるでしょう。

このような事態となり、これまで連載いただいていた執筆者に引き続き発表の場を提供するため、本年9月より私どもが主宰する「ふくおかアジア文化塾」の事業の一環として季刊「ふくおかアジア」を創刊することといたしました。

その内容は次のとおりです。

- ① 9月、12月、3月、6月の年4回発行とし、ふくおかアジア文化塾のホームページ上で公表する。
- ② 必ずしも古代史に限らない、総合的雑誌として編纂する。
- ③ ふくおかアジア文化塾のなかに季刊「ふくおかアジア」編纂委員会を設置する。
- ④ 原稿の公募はホームページやチラシ等で行う。
- ⑤ 原稿の採否については、季刊「ふくおかアジア」編纂委員会の協議により決定する。
- ⑥ ただし、ふくおかアジア文化塾は財政基盤がきわめて脆弱なため、原稿料については当面無償とする。ただし、将来的な有償化のため、財政基盤の強化に努める。

以上のとおりです。

もちろん、筆者はこれまでどおり日本の古代史の解明に向けて、尽力してまいる所存ですが、季刊「ふくおかアジア」の編集方針としては、プロ・アマを問わず、どんなテーマでも構わない———要するに「総合的雑誌」が目標です。「文芸春秋」などの月刊雑誌をイメージされたらよろしいでしょう。小説もあればエッセーもある。文科系の論文もあれば理科系の読み物もある。スポーツや音楽、映画、経済や政治などさまざまな分野について論じることも可能です。哲学や宇宙論を論じることも可能です。

創刊号は9月下旬の予定なので、掲載希望の方は9月15日までに下記あて原稿を送付してください。

<原稿の送付先>

kokorozashi1128@gmail.com(河村) naitou_ichirou@outlook.jp(内藤)